

くまづか
車塚遺跡

所在地 岡崎市岩津町車塚地内
(北緯35度0分46秒 東経137度10分23秒)
調査理由 道路改良工事(主) 岡崎足助線
調査期間 平成20年5～8月
調査面積 2,000㎡
担当者 池本正明・松田 訓・宇佐見守・武部真木



調査地点(1/2.5万「豊田」)

調査の経過 調査は愛知県建設部道路建設課による県道岡崎足助線改良工事に伴い、愛知県教育委員会の委託を受けて実施した。調査では、まず平成20年5月に県教育委員会の分布調査の結果を受け、本調査予定地の南側にて20ヶ所のテストトレンチを設定し、範囲確認調査を行った。さらに6月から8月まで、斜面を含む南北に細長い調査区の発掘を実施した。

立地と環境 車塚遺跡は、矢作川東部の丘陵端部に位置する。調査地点は、丘陵が北側に向かって下る落ち際の平坦面と斜面に立地する。範囲確認調査を行った地点は、平坦面をはさんで斜面とは反対側に位置し、逆に南東に向かって緩やかに傾斜する。旧態は、山林および畑地である。

調査の概要 範囲確認調査では、古代から中世の遺物を含む遺構が検出された。6～8月に行われた発掘調査では、耕作土を取り除くと遺物包含層の堆積はほとんど認められず、耕作に伴うものと思われる溝状のかく乱が多数掘削されていて、この覆土をのぞいた上で憩う検出作業に入った。

検出された主な遺構は、弥生時代終末から古墳時代初頭の時期と思われる竪穴建物跡7棟、戦国時代の遺物を伴う土坑2基、時期判定のできなかつた掘立柱建物跡3棟などであった。竪穴建物跡は、基底部を除いて大部分が削平されており、これらの切り合い関係はほとんど認められなかつた。掘立柱建物跡はわずかながら重なりが認められ、主軸の方向も異なるため、同時期の可能性は低いものと思われる。

検出された遺物は少ないながらも、弥生時代末から古墳時代初頭の壺・甕・高杯や、古代の須恵器甕・鉢・杯、戦国時代の陶器播鉢・椀など、各時期の生活道具をうかがわせる資料を得た。(松田 訓)



作業風景



竪穴建物跡



車塚遺跡遺構全体図(1:400)



範囲確認調査



地元説明会